

総評

出題形式は従来のセンター試験と全く同じで、あえて相違点を強調するならば①資料問題の増加と②問われる知識内容の若干の変化ぐらいです。以下、それぞれについてどのように対応すべきか説明します。

①資料問題について

今回出題された資料問題は

- 1)古文の内容/グラフや図の内容 に書かれている通りの答えを選べばいい問題
- 2)資料の文脈から「これって結局こういうことでしょ」を類推する、ちょっと考えなければいけない問題
- 3)資料の情報から関連知識を思い出すべき問題

の 3 つに分類されます。いずれも資料の利活用のために特別な知識や技能は不要。ただし資料問題に慣れることでこの 3 つのうちどのパターンなのか判別できるようになる必要はあるかもしれません。なぜなら、分類によって解き方が変わってくるからです。(1)のパターンであれば古文や図表を正確に読み取ろうとする意識を働かせることになりますし、(2)の場合は資料の内容と関連する日本史知識を結び付けて資料の歴史的な文脈について類推することになります。(3)であれば、資料の中に隠れている年号や地名から、同時期の出来事やその時代や土地で活躍した人物名等を思い出す必要があると思います。結局のところ、知識がないことには(2)と(3)はどうしようもないので、勉強すべきことは変わりません。センター試験にも、出題数こそ少ないものの同様の資料問題は出題されていました。センター試験の過去問演習をする際に資料問題と出会ったら、「この問題はどの系統なんだ?」ということを逐一考えてから取り組むようにすると、感覚が身につくでしょう。

②知識問題について

扱う知識の中にすこーしだけ難しいものがありました。具体的には、為政者の移り変わりをベースにしたタテの繋がりだけでなく、世界史的な観点も含めたヨコの繋がりや、民衆レベルでの出来事の順番等について問う問題が若干増えたような印象です。しかしこれはセンター試験の”晩年”から続く傾向ですので、共通テストになったから導入された不連続的なものではありません。歴史教科書というものは戦いの歴史から為政者の移り変わりを描写することによって大河物語を編んでいるので、ヨコの繋

がりや民衆の暮らしについての視点を描出することが得意ではありません。よって、資料集等を参考にして自分自身で補完していく必要があります。このような勉強ができるかどうかで日本史の点数に差がついてくるのではないのでしょうか。

個人的には、建築や美術作品等の知識を問う資料問題が出題されなかったことに驚いています(センター試験では頻出だったので)。古文や図表を用いた資料問題が増えたために消滅してしまったのか来年から復活するのかわからないので、資料集をよく読んで文化史の知識を身に付ける必要がなくなったというわけではないと思います。

全体を通して、共通テストでより顕著になった”コツ”を掴みながらセンター試験の過去問演習を繰り返していくことで共通テストの点数を伸ばすことができる、という印象を受けました。参考にしてみてください。